

補助金評価シート

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|------|---------------------|-----------------|-----------|----|-----------|
| 区分 | 重点 重点以外 | 補助根拠 | 法令補助 ・ その他補助 | 開始時期 | 平成30年4月1日 | 終期 | 令和3年3月31日 |
| 補助事業名 [下段に制度概要を記載] | 住宅嵩上げ工事助成金 浸水被害の軽減を図るため、住宅の嵩上げ工事について、費用の一部を助成するものです。 | | | | | | |
| 款・項・目 | 事業費 営業費用 排水設備費 | | | | | | |
| 所属等 | 下水道部 下水道計画課 事業調整班 | | | 電話 025-226-2982 | | | |

| 年 度 | | 平成30年度（1年目） | 令和元年度（2年目） | 令和2年度（3年目） |
|---------------|--|--|---------------------|------------|
| 予算額等の推移 | 予算(千円) | 354 | 354 | - |
| | 決算(千円) | 0 | 0 | - |
| 補助率 | | 1/2 | 1/2 | 1/2 |
| 目 標 | | 浸水対策の施設整備に時間や費用がかかる中で、総合的な浸水対策の一つとして、自らの財産を守るために行う自助対策に対して助成を行うことにより、浸水被害の軽減を目指しています。 <目標が数値でない場合の評価方法> 助成件数に応じて確実に浸水被害の軽減は図られるものであり、経年の実績を踏まえて予算計上していることから、予算に応じた想定助成件数を目標助成件数とします。 | | |
| 目標に対する達成度（指標） | 達成率100%以上 | | | |
| | 達成率 80%以上 | | | |
| | 達成率 50%以上 | | | |
| | 達成率 50%未満 | | | |
| | 目標が非数値化 ※取扱基準に記載した評価手法に基づく達成度について記入してください | 平成30年度の助成実績は0件。予算比0% | 令和元年度の助成実績は0件。予算比0% | - |
| 補助事業者による情報の公表 | | 住民負担金等の個人情報保護規定に抵触するので公表できません。 | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|-----------------------------|---|
| 評価欄 | チェック | a. 補助対象経費は事業の直接経費となっているか | ○ | e. 指標の推移が維持・向上しているか | × |
| | | b. 補助率は1/2以内か | ○ | f. 補助事業者による情報の公表は適正に行われているか | ○ |
| | | c. 補助額が5万円以上になっているか | ○ | g. 目標は数値化されているか | ○ |
| | | d. 収入が過剰になっていないか(繰越金が生じていないか) | ○ | h. 目標は補助金の成果を検証しやすい設定か | ○ |
| | ×になった項目に対する今後の取組 | <a～fにおける取組> 建替え時が助成の主なタイミングになることから、必要者が必要時に本制度を活用できるよう、市民に対してだけでなく建築関係の協会等にも本制度の周知を図っていく。 <g～hにおける取組> | | | |
| 目標未達成の原因分析 | <期間（3年）を通して目標達成率80%未満の場合、なぜ達成できなかったか> 申請の相談は来るものの、床上浸水の実績がないことで対象となるケースが多かった。今後は、床上浸水の実績がある地域を中心に制度の周知を図ることが必要である。 | | | | |
| ① 拡充・改善（補助率、補助額、補助対象経費、その他） ② 継続 ③ 廃止 ①～③の評価理由 ※目標未達成の原因分析に該当の場合はその要因を踏まえて今後どうするのかを記載すること 近年の全国的な豪雨災害を受け、浸水被害対策工事助成への需要が高まったことで、申請の相談が来ているため、制度の継続が必要である。 | | | | | |